

Title	〈図書紹介〉中国少数民族服飾
Author(s)	元井, 能
Citation	デザイン理論. 1981, 20, p. 138-138
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52614
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

中国少数民族服飾

今夏、7月1日から17日まで、京都府立総合資料館で、中国55少数民族服飾展が開かれた。それと前後して、「中国少数民族服飾」が中国人民美術出版社と美乃美との共同作業として出版された。この出版物は二種類あって、一方は図版がオール・カラーの豪華本と、他は大半の図版がモノクロームになっている普及版とである。両書の内容は序文や少数民族についての説明文では同一であるが、図版については、必ずしも同じものではない。また、普及版の末尾には中国中央民族学院民族研究所民族文物研究室主任の楊権氏と同研究室副主任の尹素郷氏の「豊富多彩な中国少数民族の服飾」と題する記事が見られる。

さて、本書（正しくは二冊になるが）をとり上げた企図を一考していただきたい。というのは、中国は戦後久しく、近くてきわめて遠い国としての存在であった。近時、国交が開かれて、新たな視野の下に現代の中国のイメージが私たちの前に明るくなって来たという状況にある。中国への渡航も自由になり、日本から多くの人が中国を訪れて、隣国の事情もかなり理解されている、ともいえる。中国に関する種々な情報も豊富になったとはいえ、まだまだ、私たちの知らない中国の映像が存する。私自身も、本書を手にするまで、中国にこれほど多くの、即ち55種もの少数民族が存することを知らなかった。

中国について語る時、シルクロードの位置づけは、きわめて興味ある事象であり、東西文化交流のあとづけとして、重要な意味を持つことは事実である。しかし、同時に、私たちは、それだけでなく、中国内部における文化事象として未知の世界にふれうる機会は実に多いといえよう。本書は、その未知のヴェールを一つはがしてくれる役割を持つものといえる。

(元 井 能)